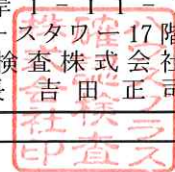


接合部性能試験成績証

試験結果は以下のとおりであることを証明する。
令和2年12月15日

東京都港区海岸1-1-1
ニューピア竹芝ノースタワー17階
ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長 吉田正司



1. 接合金物名称	グレートコーナー25kN 床合板仕様
2. 試験依頼者	株式会社 タナカ 〒300-4111 茨城県土浦市大畑702-1
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の短期基準接合耐力(引張)を評価する。
4. 試験内容	柱頭柱脚接合部(中柱型)の引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(令和2年9月11日制定)」による。
5. 試験体仕様	1) 接合金物 「グレートコーナー25kN 床合板仕様」 材 質：以下の強度を満たす炭素鋼*1 引張強さ;400N/mm² 降伏点;245N/mm² 寸 法：(外形)52.7mm×105mm×225mm 板厚t=3.2mm (組合わせ後) 接合具用孔 (柱側)10-φ6.6mm (横架材側)8-φ6.6mm (M6ねじ接合用)2-φ6.1mm 表面処理：Z27 「M6ねじ」*2 2本 材 質：強度区分4.6を満たす炭素鋼 寸 法：M6 「ナット」*3 2個 材 質：強度区分4Tを満たす炭素鋼 寸 法：M6 2) 接合具 柱側：「木ねじ TBA-65」10本 材 質：以下の化学成分を満足する炭素鋼 C;0.15~0.23%,Mn;0.60~1.00%,P;0.030%以下,S;0.050%以下 寸 法：頭部径φ9.3mm 胴部径φ5.5mm ねじ山径φ6.2mm ねじ谷径φ4mm 全長L=65mm ねじ部L=54mm 表面処理：エコート*4WH処理 横架材側：「木ねじ TBA-120」8本 材 質：以下の化学成分を満足する炭素鋼 C;0.15~0.23%,Mn;0.60~1.00%,P;0.030%以下,S;0.050%以下 寸 法：頭部径φ10.8mm 胴部径φ5.9mm ねじ山径φ6.2mm ねじ谷径φ4mm 全長L=120mm ねじ部L=95mm 表面処理：エコート*4WH処理 3) 軸組材料 柱材：105mm×105mm×600mm 無等級製材 スギ 含水率：9.0~12.0% 全乾密度：0.40~0.46g/cm³ 横架材：105mm×150mm×1,200mm 無等級製材 ヒノキ 含水率：16.0~17.5% 全乾密度：0.44~0.51g/cm³ 床合板：30mm×100mm×105mm 構造用合板 特類2級 含水率：9.0~11.0% 全乾密度：0.42~0.52g/cm³ *1 試験ではSGH400を使用した *2 試験ではM6×12ナベ頭小ねじ(強度区分4.6)を使用した *3 試験ではM6用ナット(強度区分4T)を使用した *4 エコートは、NOFメタルコーティングス株式会社の登録商標
6. 試験条件等	試験体は接合部を実状に合わせた仕様としている。 試験体は、柱芯より横架材木口(非金物)側400mmの位置で角座金W9.0×80及びM16ボルト・M16ナットを用いて鉄骨架台に緊結し(締付トルク管理値：40N・m)、横架材木口(金物)側300mmの位置で横架材固定用鋼板(105mm×340mm、厚さ22mm)を介して柱芯より180mmから520mmの範囲を鉄骨架台に緊結した。また、加力時に柱の横倒れを防止するためのサポート治具を設けた。 (詳細については接合部性能試験報告書図4.1に示す)
7. 試験結果	短期基準接合耐力 25.7 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜第二試験所：神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	令和2年11月20日、12月1日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 阪口 明弘 押田 舞衣子

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。